

YA

2006
No.16



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。



✦南熊太先生は浮羽水繩の生まれ、ながく
久留米医大（眼科学）教授をつとめられ
た。この句集『筑後川』は昭和四十二年
十月発行。和紙に刷られた温雅な句集で
還暦を機会に上梓されたよし。

筑後川 南 熊太
おそ咲きの花も散りぬる城跡かな
春雨の作る波紋は小さくて
春寒の少し歩けばあたたまり
はるかなる筑紫次郎の果て霞む
耳納山九十九峰春霞
菜種梅雨降りては止みて又降り
昨日より濃ゆしと思ふ楠若葉

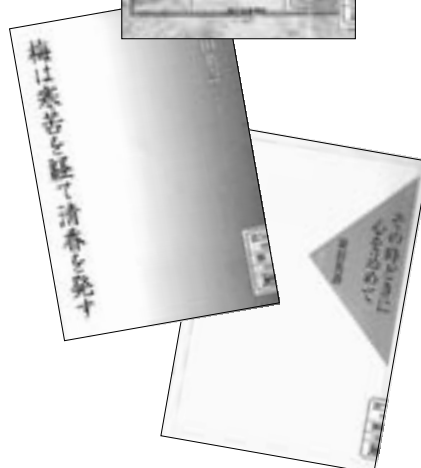
私の稀観本ノート その16

椎窓 猛

○昭和幻燈館 — 久世光彦

昭和という何とも面妖な時代も、いつも二つの貌を持ちながら、ある時は機嫌よく表の顔で笑ってみせ、あくる日には私たちを揶揄するように裏の貌で拗ねてみせ～南へ行けと言われたり、北へ帰れと言われたり、そんな時代に引っぱり廻され～〈世紀末〉というよりは〈昭和末〉の日々の中で、いま、そう思う～と書いた久世さんも、去る3月2日、虚血性心不全のため、70歳で死去。この「昭和幻燈館」は久世さんの昭和追悼録と呼んでもいいような内容。水沼丹の小説「村のエトランジェ」に、あの年のあの夏、8月15日の真青な夏を追憶した章など、昭和に生きた者の忘れられない青空である。

富田英壽先生の寄贈本



種痘による天然痘予防法に尽力の緒方春朔が筑前秋月から出た医師であることがどれほど世に知られているか。甘木のお医者、富田英壽先生の「種痘の祖緒方春朔（西日本新聞社刊）、「緒方春朔顕彰の歩み」（春朔会30周年記念誌によって、あの広く知られるジェンナーより早く種痘をしたとは、寛政5年（1793）に「種痘必順辨」を著している。この春朔顕彰の発起人が富田先生である。

富田先生は耳鼻咽喉科の医院長であるが、著述家としてもすばらしいエッセー集を刊行されている。「梅は寒苦を経て清香を発す」「その時どきに心を込めて」など、心快く読みとられて感銘深い。好著ご寄贈に感謝申し上げます。



○ 藕の木 (もちのき)

福島高校創立95周年記念誌 同窓会長小川勲氏の発刊の言葉によれば、「明治45年(八女高女時代)から平成16年の卒業生まで、アルバムを主体に編集発刊した。」と述べられている。さらには「95年前から今に至るまでをふり返り、歴史に思いをはせ、服装、容姿、表情そして時として映されている周囲の風景から、そのときの生活のありようについてイメージし、懐しみ、いとおしんでいただけたら」と述べられているが、一つの学校史からも明治、大正、昭和、平成と時代の幾山河の投影がうかがわれて貴重である。

○ 着信人払い地球郵便局

田部 光子 田部さんは前衛画壇「九州派」の特異な画家で知られる画家。あとがきによれば「当時のフクニチ新聞の文化部長であった深野治さんのすすめでコラムを書くようになったら、面白くてたまらなくなりました。それがたまって一冊の本が出来あがった」とのこと。「九州派」の画家時代、妊娠五ヵ月で東京展、腹帯の上に「九州派」の大金を巻いて上京、無事会計係としての責任を果たしたといった話からしても気丈な女流画家の人柄が察知される痛快なコラムが豊富。

○ ぼたん雲

能間 哲子 著者能間哲子先生は長崎出身だが、平成17年福岡県の小学校長退職。36年間の教師体験から滲みでたような〜いじめられっ子トコちゃん靴をかくされ、はだしで野原に足をなげだしているとき、空から亡くなったはずのおばあちゃんがなぐさめに訪れてくる幻想の童話。先生は、あとがきに「大いなるものの存在に対し畏敬の念がうすれていく昨今、それを導くのが大人の役わりではないか」と訴えられている。読み終って清らかな水で心が洗われるような感情に包まれる童話である。

○ タラフ・トンテン

田舎のタクシーおもしろ話 田中 有二 著者プロフィールに1976年よりタクシーに乗務とあるのみだが、ざっと30年余のこの道の運転士。車での見聞録である。「長男の嫁」という話では、お寺詣りに行く四人の婆さんたち。車が走りだすといっしょにそれぞれ嫁の悪口。口を揃えて、次男三男の嫁がやさしく出来がよいと言う。盆、正月、手みやげ持参で、肩をもんでくれたり、二、三日のこと。婆さんたちも姑からこの家を取っているくせに〜と世情浮世の話が満載の本。

編集掌記

▽九州芸術祭文学賞授賞式の記念講話で、作家五木寛之さんが、「百寺巡礼」の一端を語った。五木さんの話を直接聴かなかつたら、かくも熱心に「百寺巡礼」を読むことにはならなかったにちがいない。活字の裏から五木さんのナマの声が聴こえてくるのである。「寅さんの街、柴又に立つ古寺の風格」を読むと、五木さんは学生時代、九州の田舎から上京してきて、台東区や葛飾区などの下町一帯の新聞配達を担当、いい場所で働かせてもらったと感謝していること記している。板本尊を祀る帝釈天への人びとの信仰、庶民の信仰の根を語られている。▽こつした五木さんの「百寺巡礼」を読んでいると、「自分史図書館」に寄贈される本もまたときとして名も知られない佛師が刻んだ佛像のように見えなくなるのである。五木さんは有名、大流行作家だが、根のところでは有名無名に関わらぬ共通する心根を秘めている。館長より

受贈図書紹介 15

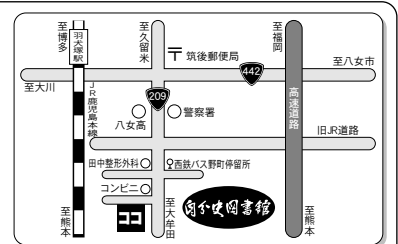
順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

- 句集老松 江頭伊三郎 大川市
- 檜橋渡伝
- ある医学徒の戦後 鷗澤 春生
- 江頭幸氏追悼誌 江頭 澄子 三根町
- あやとりの詩 水間真由美 筑後市
- 詩集越境する霧 若松丈太郎 福島県
- 祇園太鼓 北九州青年会議所
- 初老達の台湾旅行 吉富 徳 北九州市
- 詩と真実 650号特集
- 歌集銀のライター 藤本準策遺稿 久留米市

蔵書目録ができました ¥160 送料込(郵便切手可)

自分史図書館

入館無料 開館/午前9時~午後5時30分 休館/日曜、土曜日、祝祭日、年末・年始、その他休館することがあります。予めご確認ください。貸し出しはしていません。インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122 西鉄バス野町停留所より徒歩5分